

# 白瀬南極探検隊記念館 自己評価報告書

〈平成 30（2018）年度〉

## 目 次

1. 導入の経緯	p. 1
2. 自己評価の基本的な考え方	p. 1
3. 自己評価会議の実施状況	p. 2
4. 段階評価の基準	p. 2
5. 指標の種類	p. 2
6. 使命	p. 3
7. 目標	p. 3
8. ロジックモデル	p. 4
9. 総合評価	p. 5
10. 評価表	p. 6～ p.12
11. 添付資料	p.13～ p.15



# 白瀬南極探検隊記念館 2018（平成30年）年度 自己評価報告書

## 1. 導入の経緯

当館が自己評価の導入を図る発端は、平成27年2月に北海道大学大学院文学研究科歴史地域文化学専攻（当時）の大内須美子氏が実施した、「自己評価の現状に関する調査」のアンケートでした。

アンケート回答後平成27年6月に大内氏がアンケート結果を活用した修士論文「公立博物館の自己評価に関する研究 - 留萌市海のふるさと館の事例を中心に -」を送付され、拝読させていただく中で、当館等における自己評価に関する導入の可能性を探ることとなりました。そして同時期に、大内氏がフィールドワークとして研究の協力館を募集していたことをこれ幸いに、当館も含めたにかほ市内にある4つの博物系施設を売り込むことに成功し、氏の協力を得て自己評価を導入する機会を得ることになりました。

様々な資料を確認する中で、特に自己評価に関して期待を持ったのが、客観的な視点、理論に基づいた分類や整理を行い評価していく中で、当館がどう変わっていくか、そして更に4つの類似施設が同じ目標や理論ものと共同作業をしていくことで生まれる、連携と意識改革の化学変化でした。

自己評価導入にあたって、遠く北海道から何度も足を運ばれ、懇切丁寧にご指導いただいた大内須美子氏に深く感謝するとともに、我々が氏の研究の一助となることを祈り、自己評価導入の成果を今後の館運営に反映させることができれば幸いです。

協力：北海道大学大学院 文学研究院

文化多様性論講座 博物館研究室 博士後期課程 大内須美子氏

## 2. 自己評価の基本的な考え方

現在よりも進んだ施設運営を行うためには、館がどのような目的をもつ施設であるか（使命）を明確にして、今後どのような方向に力を注ぐべきかについて実現可能な目標をたてて絞り込む必要があります。目標達成のための事業計画ごとの指標をつくり、実現に向けて事業を運営します。そして事業の実行後に自己評価をし、その分析結果をまた新しい計画に活かしてゆくという一連の自己評価のサイクルを運用してゆくことにより、事業の運営改善のための課題を明確化し、さらに地域に求められる施設運営が実現できます。

### 3. 年間のPDCAサイクル

2017（平成29）年

4月～ H29年度事業執行

11/27(月)～30(水) H29年度中間評価：指標・年間目標値の再検討

12月 市予算案作成

2018（平成30）年

3月 H30年度予算成立

4月～ H30年度事業執行

4～5月 H29年度実績評価指標の自己評価

H30年度計画作成

6/25(月)～26(火) ミーティング 年間評価⇒改善点・今後の方策

10月 上半期（4～9月）中間評価⇒改善点・今後の方策

12月 市予算案作成

2019（平成31・令和元）年

3月 H31年度予算成立

4月～ H31（R1）年度事業執行

5/22(水)～23(木) ミーティング 年度評価⇒改善点・今後の方策



### 4. 段階評価の基準

A	優良：目標を超える成果をあげている。 内容が特に優れている。	100%以上
B	良好：目標に対し良好な成果をあげている。 内容に優れた点がみられる。	80～100%未満
C	適正：計画に即して目標を達成している。 内容が適正である。	60～80%未満
D	改善：目標が達成できていない点がある。 もしくは内容の改善が必要である。	30～60%未満
E	見直し：目標がほとんど達成できていない。 抜本的な改善が必要であるか中止する。	30%未満

### 5. 指標の種類

P1	アウトプット指標①	目標値に対する実績の達成率で判断
P2	アウトプット指標②	アンケート結果「とても良かった+良かった」の合計で判断
C	アウトカム指標	アンケート・インタビュー・その他の調査等の総合判断

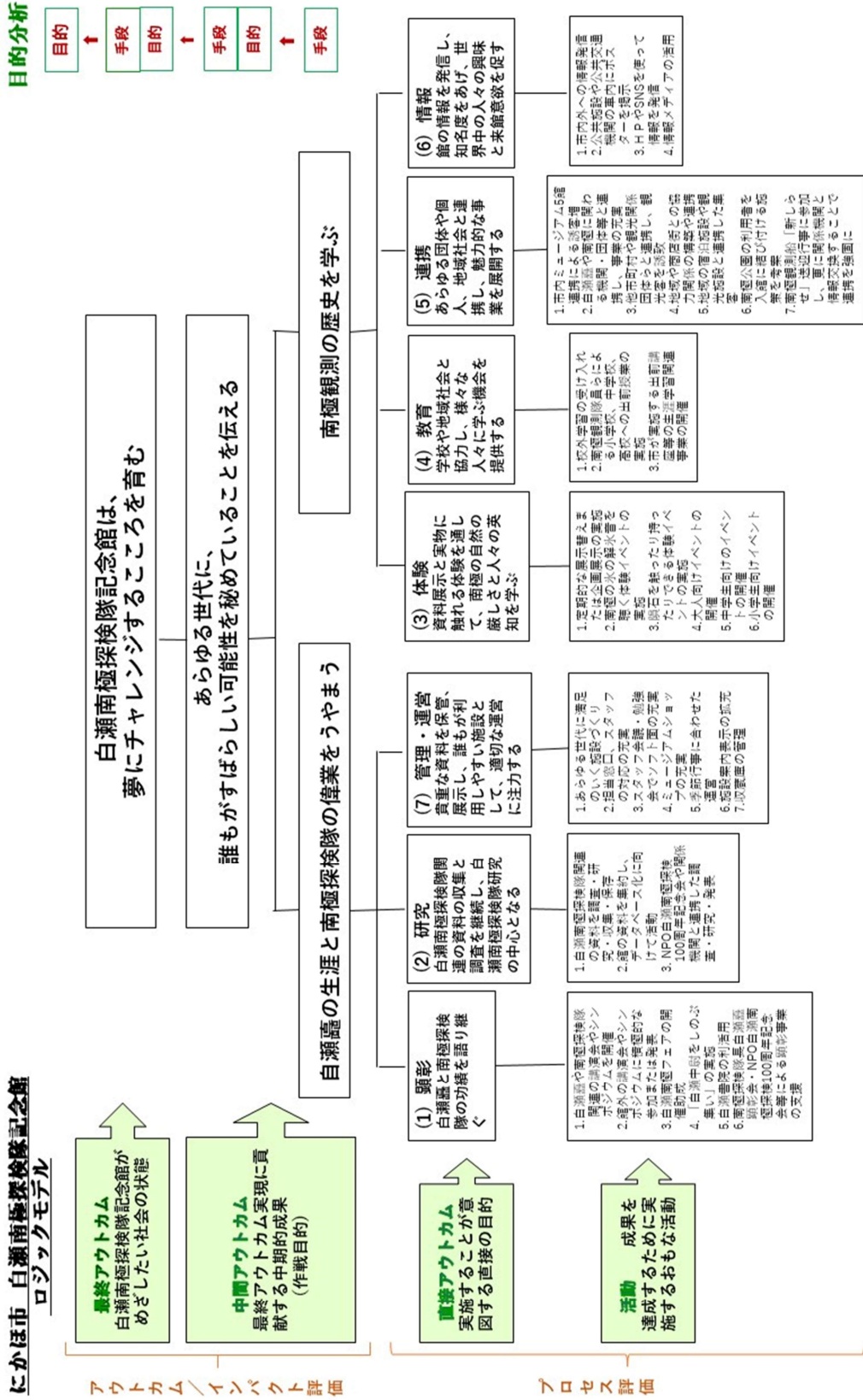
## 6. 使命

白瀬南極探検隊記念館は、  
白瀬矗の生涯と南極探検隊の偉業をうやまい、南極観測の歴史を学ぶことによっ  
て、あらゆる世代に、だれもがすばらしい可能性を秘めていることを伝え、  
夢にチャレンジする心を育みます。

## 7. 目標

- (1) 顕彰 …… 白瀬矗と南極探検隊の功績を語り継ぐことによって、だれもがすばらしい可能性を秘めていることを伝えます。
- (2) 研究 …… 白瀬南極探検隊関連の資料の収集と調査を継続し、白瀬南極探検隊研究の中心となります。
- (3) 体験 …… 貴重な資料展示と、実物に触れるという体験をとおして、南極の自然の厳しさと人々の英知を学びます。
- (4) 教育 …… 学校や地域社会と協力し、様々な人々に学ぶ機会を提供します。
- (5) 連携 …… あらゆる団体や個人、地域社会と連携し、さらに魅力的な事業展開をします。
- (6) 情報 …… 白瀬南極探検隊記念館情報を発信することにより知名度をあげ、世界中の人々の興味と来館意欲を促します。
- (7) 管理・運営 …… 貴重な資料を保管して展示し、だれもが利用しやすい施設として適切な運営に注力します。

# 8. ロジックモデル



## 9. 総合評価

<p>■ 総合評価</p>
<p><b>成果</b></p>
<p>白瀬臺、白瀬南極探検隊の顕彰を目的とした講演会、講座等への参加者数が総じて計画を上回るとともに参加者の満足度も高く、一定の成果を得ました。加えて、南極料理に関する教室の開催や冒険家 阿部雅龍氏への応援をはじめ、体験型・一般参加型の事業にも取り組み、幅広い層へと対象者を拡大することができました。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・期間中の入館者は、計画達成には至らなかったものの前年度を上回る結果となり、併せて、来館する団体も小学生を中心に増加したことから、各種媒体を活用した PR の効果が表れました。特に、新聞やテレビ等で取り上げられ配信された、いわゆるパブリシティでの効果も大きく、白瀬南極探検隊記念館への理解が広がりました。</li><li>・国立極地研究所や仁賀保高校等、にかほ市との連携協定を締結した機関との関係性が深まったことにより、今後の連携事業の可能性が広がったほか、白瀬南極観測隊及び南極観測に関する研究者との連携・協力が行われました。</li><li>・適切な施設管理とお客様対応に関するスタッフの意識付けを図った結果、来館者の満足度は高い水準にあります。アンケートの結果では、施設全般の満足度は 87.9%、受付・案内の満足度は 92.6%に上りました。</li></ul>
<p><b>課題</b></p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・所蔵する資料のデータベース化や資料の分類作業の進捗が遅れています。将来的には市の関係部所（文化財、公文書等）と合わせてデータベース化についての計画を検討する必要があります。</li><li>・小学生等の体験学習の機会提供及び家族連れで来館されるお客様の満足度向上のため、現在の南極の氷・いん石体験に加えて、新たな体験型メニューを考案する必要があります。</li><li>・入館者が近年減少傾向にあるなかで、より広く効果的に施設を PR することが可能な手法を検討する必要があります。併せて、インバウンドなど多様なニーズへの対応が必要になっています。</li></ul>
<p><b>今後の方策</b></p>
<ul style="list-style-type: none"><li>・恒例の「白瀬・南極フェア」、「白瀬中尉をしのぶ集い」のイベントを中心に、講演会や講座、教室等の開催においては、より幅広い層の方々が参加でき、白瀬臺の顕彰及び南極に関する理解に結び付くような内容となるような方策を検討します。</li><li>・所蔵する資料の適切な管理を行うとともに、将来的にはアーカイブとして人々に活用されることを目指して、資料の分類やデータベース化を進めます。</li><li>・関係機関や研究者との連携を進め、連携に基づく事業を実現することにより、学習機会の拡充及び学習内容の充実を図ります。</li><li>・適切な施設管理と入館者対応の向上に取り組むとともに、多様な媒体を活用した適切で効果的な情報提供を行うことにより、入館者数の増加とさらなる満足度向上を図ります。</li></ul>

## 10. 評価表

・目標1 顕彰・・・白瀬轟と南極探検隊の功績を語り継ぐことによって、だれもが素晴らしい可能性を秘めていることを伝えます。								
事業（事業戦略）	評価指標	データ収集方法	29年度年間実績	30年度年間目標値	30年度年間実績	指標の種類	評価	
1 白瀬轟や南極探検隊関連の講演会やシンポジウムを開催する。	1 開催数	事業統計データ	13	3	4	P1	A	
	2 来場者数	事業統計データ	198	150	203	P1	A	
	3 来場者満足度	アンケート	88.4%	100.0%	61.6%	P2	C	
2 館外の講演会やシンポジウムに積極的に参加または発表する。	1 参加回数	事業統計データ	4	2	2	P1	A	
	2 うち発表回数	事業記録チェック	4	2	1	P1	D	
3 白瀬南極フェアの開催助成をする。	1 会期中来館者数	事業記録チェック	133	200	146	P1	C	
	2 参加者数	事業記録チェック	2,500	2,500	2,300	P1	B	
	3 白瀬轟・南極への関心の高まり	アンケート	-	20.0%	39.8%	P2	A	
4 「白瀬中尉をしのぶ集い」の実施。	1 雪中行進参加者数	事業統計データ	360	400	450	P1	A	
	2 講演会聴講者数	事業記録チェック	199	300	450	P1	A	
5 白瀬書院の利活用	1 利用回数	事業統計データ	2	2	4	P1	A	
	2 利用者数	事業統計データ	114	200	157	P1	C	
	3 利用者満足度	アンケート	96.0%	100.0%	81.6%	P2	-	
6 南極探検隊長白瀬轟顕彰会・NPO白瀬南極探検100周年記念会等による顕彰事業の支援	1 共催件数	事業記録チェック	1	1	1	P1	A	
	2 後援件数	事業記録チェック	2	2	2	P1	A	
目標1	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、「南極点到達50周年」をテーマとして、白瀬轟の功績と現在の南極地域観測事業との関わりを企画展示を中心に、講演会等の関連事業を行った。各事業とも多くの参加者があり、事業の趣旨を広く伝えることができました。</li> <li>・市民に広く白瀬轟の業績に触れてもらう機会となる、恒例の「白瀬・南極フェア」及び「白瀬中尉をしのぶ集い」では、顕彰事業という特色を前面に出す企画・運営に努め、参加者数、満足度とも一定の成果をあげることができました。</li> </ul>						
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント時の入館者数や白瀬書院の活用等は、さらに改善の余地があります。特に、「白瀬・南極フェア」参加者の多くは記念館へ入館していません。市内外の方々に白瀬轟の功績を伝えるために施設の活用を図ることが課題となっています。</li> </ul>						
	今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記念館が有する資料や施設の活用と併せて、極地に関わる人々（研究者、技術者、冒険・探検家等）と連携した事業を積極的に行うことにより白瀬轟・白瀬南極探検隊の功績を語り継いでいきます。</li> <li>・「白瀬・南極フェア」開催日に、より多くの来場者が白瀬轟の功績に触れる機会となるよう、当日の記念館入館料無料化を検討します。</li> </ul>						



・目標2 研究・・・白瀬南極探検隊関連の資料の収集と調査を継続し、白瀬南極探検隊研究の中心となります。

事業（事業戦略）		評価指標	データ収集方法	29年度年間実績	30年度年間目標値	30年度年間実績	指標の種類	評価	
1	白瀬南極探検隊関連の資料を調査・研究・収集・保存する。	1	資料調査・研究・検証・収集・保存に関する総合判断	内部調査	4.6	5.0	4.0	C	B
		2	収蔵庫の管理に関する総合判断	内部調査	4.4	5.0	4.2	C	B
2	館の資料を集約し、データベース化に向けて活動する。	1	データベース化進捗率	事業記録チェック	55.0%	60.0%	55.0%	C	B
3	NPO白瀬南極探検100周年記念会や関係機関と連携し、調査・研究・発表を進める。	1	NPOとの調査・研究・発表・件数	事業記録チェック	3	3	3	P1	A
		2	他機関と連携して行った調査・研究・発表件数	事業記録チェック	3	1	2	P1	A
目標2	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>白瀬南極探検隊遺族関係者、NPO白瀬南極探検100周年記念会及び研究者からの情報や資料の提供がありました。</li> <li>30年度は「（第9次南極観測隊による）南極点到達50周年」をテーマとして、地域の先人たちとの関わりに関する資料の調査を行い、企画展を開催しました。</li> </ul>							
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>長く課題となっている資料のデータベース化、資料の分類作業はほとんど進みませんでした。市の関係部所（文化財、公文書等）と合わせてデータベース化についての計画を検討する必要があります。</li> <li>資料に関する問い合わせやレファレンスに適切に対応できるよう、研究者等とのネットワーク拡大・強化を図る必要があります。</li> </ul>							
	今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究者や民間団体等とともに調査研究を継続するとともに、資料の分類の効果的な進め方について検討し、アーカイブとして人々に活用される態勢づくりを目指します。</li> </ul>							

・目標3 体験・・・貴重な資料展示と、本物に触れるという体験をとおして、南極の自然の厳しさと人々の英知を学びます。

事業（事業戦略）		評価指標	データ収集方法	29年度年間実績	30年度年間目標値	30年度年間実績	指標の種類	評価	
1	定期的な展示替えまたは企画展示の実施。	1	展示更新回数	事業記録チェック	2	2	2	P1	A
		2	来館者満足度	アンケート	88.4%	100.0%	57.1%	P2	D
2	南極の氷の解氷音を聴く体験イベントの実施。	1	実施回数	事業記録チェック	504	560	638	P1	A
		2	参加人数	事業記録チェック	4,428	4,900	5,695	P1	A
		3	来館者満足度	アンケート	94.9%	100.0%	78.2%	P2	C
3	隕石に触ったり持ったりできる体験イベントの実施。	1	実施回数	事業記録チェック	616	680	821	P1	A
		2	参加人数	事業記録チェック	4,624	5,100	6,456	P1	A
		3	来館者満足度	アンケート	94.9%	100.0%	74.1%	P2	C
4	大人向けイベントの開催。	1	開催回数	事業記録チェック	0	1	2	P1	A
		2	参加人数	事業記録チェック	0	20	59	P2	A
		3	参加者満足度	アンケート	0.0%	100.0%	N. D.	P2	-
5	中学生向けのイベントの開催。	1	開催回数	事業記録チェック	2	2	3	P1	A
		2	参加者数	事業記録チェック	6	6	9	P1	A
		3	参加者満足度	アンケート	N. D.	100.0%	100.0%	P2	A
6	小学生向けイベントの開催。	1	開催回数	事業記録チェック	0	1	0	P1	E
		2	参加者数	事業記録チェック	0	1	0	P1	E
		3	参加者満足度	アンケート	0	100.0%	N. D.	P2	-
目標3	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して入館者数が増加したことから、南極の氷及びいん石体験の参加者が計画を上回りました。</li> <li>「南極料理人による料理教室」「ミュージアムツアー」等、当初計画になかった事業を実施し、白瀬や南極に関心の薄い市民に対して学習する機会を提供することができました。</li> </ul>							
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展、南極の氷・いん石体験に関する満足度は、低い水準ではないものの前年度を下回っていることから、解説、説明の方法などについて検討する必要があります。</li> <li>小学生等低年齢層を対象とした事業の実施に至らず、引き続き検討する必要があります。</li> </ul>							
	今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>館内の資料を活かした体験学習のメニューを、特に、小学生以下の子どもや子供連れの家族向けに、楽しく感動できる内容を検討します。</li> <li>中学生の「ジュニアガイド養成講座」や大人向けの教室など、体験型の学習機会を設けることで、白瀬や南極に関する理解が深まるような事業を実施します。</li> </ul>							

・目標4 教育 ……学校や地域社会と協力し、さまざまな人々に学ぶ機会を提供します。

事業（事業戦略）		評価指標	データ収集方法	29年度 年間 実績	30年度 年間 目標値	30年度 年間 実績	指標 の種 類	評価	
1	校外学習の受け入れ。	1	受け入れ 団体数	事業記録 チェック	15	16	27	P1	A
		2	受け入れ人数	事業記録 チェック	506	540	749	P1	A
2	南極観測隊員らによる小学 校、中学校、高校への出前 授業の実施。	1	回数	事業記録 チェック	6	3	2	P1	C
		2	対象人数	事業記録 チェック	426	200	130	P1	C
3	市が実施する出前講座等の 生涯学習関連事業の開催。	1	実施回数	事業記録 チェック	9	9	7	P1	C
		2	参加人数	事業記録 チェック	220	220	276	P1	A
		3	参加者満足度	アンケート	N. D.	100.0%	77.9%	P2	C
目 標 4	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校等へのダイレクトメール送付等の効果もあり、校外学習を目的とした団体数・入館者数が前年度を上回りました。</li> <li>市の出前講座は件数が前年を下回ったものの、市内企業への出前の例があったなど参加人数は増加し、対象が広がるとともに事業への理解が浸透してきています。</li> </ul>							
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校への出前授業は、学校側の日程等の都合により計画どおり実施できませんでした。</li> </ul>							
	今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>出前授業は、学校側との連携を密にし全校で実施できるよう努めるとともに、出前授業については、より周知を図り、市民のニーズに応えるよう内容の向上を図ります。</li> </ul>							

・目標5 連携・・・あらゆる団体や個人、地域社会と連携し、さらに魅力的な事業展開をします。							
事業（事業戦略）	評価指標	データ収集方法	29年度年間実績	30年度年間目標値	30年度年間実績	指標の種類	評価
1 市内ミュージアム5館が連携し誘客の増を図る	1 連携事業数	事業記録チェック	1	1	1	P1	A
	2 連携事業期間の来館者数※前年同期との比較	事業記録チェック	2,358	2,600	1,858	P1	C
2 白瀬蘆や南極に関わる機関・団体等と連携し、事業の充実を図る。	1 連携事業数	事業記録チェック	1	2	3	P1	A
	2 参加者数	事業記録チェック	20	40	150	P1	A
3 他市町村や観光関係団体らと連携し、観光客を誘致する。	1 来館した旅行会社へのアプローチ数	事業記録チェック	10	10	10	P1	A
	2 旅行関連会社への訪問・商談回数	事業記録チェック	10	10	5	P1	D
4 地域や商店街との協力関係の構築や連携。	1 協力のための働きかけ数	事業記録チェック	2	2	3	P1	A
	2 連携・協力した事業実施数	事業記録チェック	2	2	4	P1	A
5 地域の宿泊施設や観光施設と連携し、集客を図る。	1 集客誘引数	事業記録チェック	294	300	235	P1	C
	2 集客協力施設数	事業記録チェック	8	8	7	P1	B
6 南極公園の利用者を入館に結び付ける施策を考案する	1 考案数	事業統計データ	2	2	2	P1	A
7 南極観測船「新しらせ」送迎行事に参加し、更に関係機関と情報交換することで連携を強固にする。	1 行事参加回数	事業記録チェック	2	5	5	P1	A
	2 関係機関訪問数	事業記録チェック	9	9	10	P1	A
目標5	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・30年6月には、市内の博物館系施設5館による「にかほミュージアム連携協議会」が設立され、連携事業に参加しました。</li> <li>・にかほ市が連携協定を締結した国立極地研究所や仁賀保高校と、年間を通じて連携・協力事業を実施し、成果をあげました。</li> <li>・白瀬蘆及び南極に関する研究者との連携や南極点到達を果たした冒険家 阿部雅龍氏への支援を通じて、各種事業展開や情報発信の幅が広がりました。</li> </ul>					
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当館事業実施の都合により、市内の観光施設や市外の旅行エージェントへの働きかけなどが積極的に行えませんでした。連携する由利地域振興局・観光推進機構との協力関係を強化する必要があります。</li> <li>・南極公園や勢至公園等、近隣の公園施設への来訪者に対する入館誘導活動を更に強化する必要があります。</li> </ul>					
	今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「にかほミュージアム連携協議会」との連携により、当館の個性を活かしつつ地域の博物館系施設全体の質の向上を図ります。</li> <li>・にかほ市の連携協定を最大限活用し、連携相手との新たな連携事業実施に向けて協議を進めます。</li> </ul>					

・目標6 情報・・・白瀬南極探検隊記念館情報を発信することにより、知名度を上げ、世界中の人々の興味と来館意欲を促します。

事業（事業戦略）	評価指標	データ収集方法	29年度年間実績	30年度年間目標値	30年度年間実績	指標の種類	評価
1 市内外への情報発信。	1 観光宣伝媒体の掲載（放映）数	事業記録チェック	49	20	33	P1	A
	2 パンフレット・DM送付数	事業記録チェック	1,105	1,000	903	P1	B
	3 パンフレット配布枚数	事業記録チェック	1,033	1,000	1,400	P1	A
	4 イベントポスター掲示箇所数	事業記録チェック	309	300	274	P1	B
	5 施設案内ポスター掲示箇所数	事業記録チェック	2	2	0	P1	E
	6 情報媒体を見て来館した来館者数 (新聞+広報+看板・ポスター+HP+SNS)	アンケート	25.3%	33.3%	34.7%	P2	A
2 公共施設や公共交通機関の車内にポスターを掲示する。	1 公共施設ポスター掲示数	事業記録チェック	11	11	0	P1	E
	2 公共交通機関車内ポスター掲示数	事業記録チェック	0	1	0	P1	E
3 HPやSNSを使って情報を発信する。	1 HPアクセス数	事業記録チェック	-	-	ND	P1	-
	2 HP更新数	事業記録チェック	24	24	24	P1	A
	3 SNS情報発信数	事業記録チェック	53	55	95	P1	A
4 情報メディアの活用	1 回数（白瀬轟+南極探検隊+記念館+イベント）	事業記録チェック	52	20	27	P1	A
	2 イベント事前情報掲載数	事業記録チェック	7	10	20	P1	A
目標6	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSでの積極的な情報発信に努めたほか、新聞・テレビ等で取り上げられた回数も多く、有効なPR活動を行うことができました。</li> <li>・情報媒体からの情報を見て来館されたお客様も多く、PRの有効性が向上しています。</li> </ul>					
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターやチラシなど紙媒体でのPRの効果を引き続き検討する必要があります。</li> <li>・コストや効果の面から、にかほミュージアム連携協議会をはじめ、各種関係団体と連携した情報発信の方法を検討する必要があります。</li> <li>・インパウンドに対応した展示や広告媒体の整備を求める声があり、方法を検討する必要があります。</li> </ul>					
	今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きネットを活用した適切な情報発信に努めるとともに、関係機関・者と連携した情報発信に取り組みます。</li> <li>・広告と併せて、マスコミへの情報提供を積極的に行い、パブリシティによる効果的な広報活動を行います。</li> </ul>					

・目標7 管理・運営・・・貴重な資料を保管して展示し、だれもが利用しやすい施設として、適切な運営に注力します。

事業（事業戦略）		評価指標	データ収集方法	29年度年間実績	30年度年間目標値	30年度年間実績	指標の種類	評価
1	あらゆる世代に満足のいく施設づくり	1 館全体の満足度	アンケート	89.9%	100.0%	87.9%	P2	B
		2 来館者数	事業記録チェック	11,907	12,562	12,238	P1	B
2	担当窓口、スタッフの対応の充実	1 応対向上の心がけ「スマイル+ひとことアップ」	自己採点（主観評価※1）	-	5.5	7.2	P2	A
		2 受付・展示説明満足度	アンケート	82.9%	100.0%	92.6%	P2	B
3	スタッフ会議・勉強会でソフト面の充実を図る。	1 スタッフ会議回数	事業記録チェック	2	2	2	P1	A
		2 研修会・勉強会開催回数	事業記録チェック	2	2	3	P1	A
4	ミュージアムショップの充実	1 売上前年比	事業統計データ	9.1%	5.5%	7.7%	P1	A
		2 来館者満足度	アンケート	67.1%	100.0%	ND	C	-
5	季節行事に合わせた運営	1 季節に合った館内展示替え回数	事業記録チェック	0	1	0	P1	E
		2 季節行事等のイベント回数	事業記録チェック	0	1	0	P1	E
6	施設案内表示の拡充	1 施設内表示の新設・更新数	事業記録チェック	2	2	0	P1	E
		2 施設外案内表示の設置数	事業記録チェック	2	2	2	P1	A
		3 来館者満足度	アンケート	77.5%	100.0%	87.9%	P2	B
7	収蔵庫の管理	1 目標設定による進捗率（マトリクス）	内部調査	4.4	5.0	4.2	C	B
目標7	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標（100%）には達しなかったものの、施設全般やスタッフの対応に関しては、来館者の高い満足度を得ることができました。</li> <li>・施設の付加価値を高めるため、ミュージアムショップの充実と適切な商品売込みを図り、商品の販売金額は前年度を上回る伸びとなりました。</li> </ul>						
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入館者数が前年を上回ったものの計画に達しなかったため、展示の内容はもちろん、ソフト面でお客様の満足度を高め、入館者数の増加に結び付くための創意工夫が必要です。</li> </ul>						
	今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き入館者の満足度や多様なニーズの把握に努め、スタッフ研修の充実を図るとともに適切な施設管理・運営を行います。</li> <li>・資料の適切な管理に努め、お客様が利用しやすい施設になるよう、貴重な資料の活用を図ります。</li> </ul>						

## 1.1. 添付資料

### 1) 来館者アンケートの結果

◆期 間：平成 30 年 8 月 16-26 日、9 月 15-24 日、10 月 6-14 日（延べ 26 日間）

◆回答数：216 人 注：表中の%は、回答数に対する比率である。

#### 1. 性別

項 目	人数	%	コメント欄
男	131	60.6	
女	82	38.0	

#### 2. 年齢

項 目	人数	%	コメント欄
12 歳以下	12	5.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・40 歳代を中心に、あらゆる世代が入館している。</li> <li>・12～17 歳（小学高学年から高校生）の入館割合が低い。</li> </ul>
12～17 歳	5	2.3	
18～29 歳	23	10.6	
30 代	35	16.2	
40 代	42	19.4	
50 代	40	18.5	
60 代	40	18.5	
70 代	19	8.8	
80 代以上	0	0.0	

#### 3. お住まい

項 目	人数	%	コメント欄
にかほ市内	13	6.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内、(隣接する) 由利本荘市からの来館者は全体の 1 割あまり。</li> <li>・県外からの入館者は合計 66.7%で、全体の 3 分の 2。首都圏をはじめ全国各地から来館している。</li> </ul>
由利本荘市	12	5.6	
秋田市	18	8.3	
秋田県内（上記以外）	28	13.0	
山形県内	25	11.6	
その他県外	119	55.1	
※その他の内訳(都道府県名): 神奈川 18、新潟 18、岩手 16、青森 9、東京 9、宮城 7、埼玉 5、千葉 5、大阪 4、北海道 3、茨城 3、群馬 3、兵庫 3、福島 2、静岡 2、福岡 2、栃木 1、石川 1、長野 1、愛知 1、島根 1、山口 1、熊本 1			

#### 4. 白瀬南極探検隊記念館にご来館いただいた回数を教えてください

項 目	人数	%	コメント欄
今日初めて	166	76.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての来館が多く、リピーターは相対的に少ない。</li> </ul>
2 回目	23	10.6	
3～5 回	16	7.4	
5～10 回	7	3.2	
10 回以上	3	1.4	

#### 5. 白瀬南極探検隊記念館を何でお知りになりましたか？（複数回答）

項 目	人数	%	コメント欄
以前から知っていた	100	46.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前から知っていた方は全体の半数。</li> <li>・新聞・本・雑誌・広報紙等紙媒体の情報による割合は低い。</li> </ul>
人から聞いて（口コミ）	23	10.6	
新聞	6	2.8	
本・雑誌	18	8.3	
広報紙	5	2.3	
看板・ポスター	8	3.7	
ホームページ	26	12.0	
SNS（フェイスブック、ツイッターなど）	12	5.6	

宿泊先	0	0.0	
観光施設	4	1.9	
通りすがり	24	11.1	
その他	15	6.9	

6. 今日は、館内で、どのくらいの時間を過ごされましたか？

項目	人数	%	コメント欄
30分未満	25	11.6	
30分～1時間未満	120	55.6	
1時間～2時間未満	59	27.3	
2時間以上	10	4.6	

7. 館内で良かった展示・コーナーを教えてください。(複数回答)

項目	人数	%	コメント欄
白瀬巖に関する展示	115	53.2	・白瀬巖の展示、南極探検隊の展示とも半数の方がよかったと感じている。
白瀬南極探検隊に関する展示	106	49.1	
開南丸など船に関する展示	76	35.2	
南極観測に関する展示	48	22.2	
雪上車・南極点到達の展示	98	45.4	
オーロラドーム	94	43.5	
いん石の展示	101	46.8	
昭和基地ライブ映像	33	15.3	
企画展（「南極の夏」写真展）	10	4.6	
ミュージアムショップコーナー	13	6.0	
その他	10	4.6	

8. 体験コーナーの満足度をお聞かせください

①南極の氷

項目	人数	%	コメント欄
満足	126	58.3	・「満足」と「やや満足」と答えた人の合計(満足度)は78.2%。
やや満足	43	19.9	
普通	32	14.8	
やや不満	3	1.4	
不満	2	0.9	
体験しなかった	2	0.9	

②いん石

項目	人数	%	コメント欄
満足	117	54.2	・「満足」と「やや満足」と答えた人の合計(満足度)は74.1%。
やや満足	43	19.9	
普通	37	17.1	
やや不満	4	1.9	
不満	1	0.5	
体験しなかった	2	0.9	

9. 施設の全体的な満足度をお聞かせください。(料金や期待に対しての満足感)

項目	人数	%	コメント欄
満足	118	54.6	・「満足」と「やや満足」と答えた人の合計(満足度)は87.9%。
やや満足	72	33.3	
ふつう	22	10.2	
やや不満	3	1.4	
不満	1	0.5	



10. 受付・案内スタッフの対応について感想をお聞かせください

項目	人数	%	コメント欄
とてもよかった	121	56.0	・「満足」と「やや満足」と答えた人の合計(満足度)は92.6%。
よかった	79	36.6	
ふつう	13	6.0	
あまりよくなかった	0	0.0	
よくなかった	0	0.0	

11. ご意見・ご感想・ご要望など、自由にお書きください  
(省略)

白瀬南極探検隊記念館 自己評価報告書

〈2018（平成30）年度〉

内容についてのお問合せ先

〒018-0302 秋田県にかほ市黒川字岩瀧 15-3

TEL0184-38-3765